

携帯電話を活用した聴覚障がい者向け『モバイル型遠隔情報保障システム』

話された内容を、即座に文字にして表示！
 今までは難しかった「移動を伴うような状況」でもサポート利用に！

聴覚障がいをお持ちの方を対象とした『モバイル型遠隔情報保障システム』の実用化と普及を目指し、企業や教育機関など、実際に使用が想定される環境下において、導入実験を行っています。筑波技術大学を代表として、群馬大学、東京大学、ソフトバンクモバイル株式会社、そしてNPO法人 長野サマライズ・センターで構成した研究グループが、共同でこの試みを進めています。

本システムの利用により、社会見学や遠足など屋内外で移動を伴う場合、また教室や体育館などLAN環境のない場所や、パソコンを持ち込むことが難しい環境下でも、携帯電話の電波の届く範囲内ならば聴覚障がいをお持ちの方が要約筆記を利用できるようになり、情報保障を得る機会が大幅に拡大します。また、心理的な配慮の必要な学生（生徒）のサポート、そして情報保障のシェアなどにも向いています。

『モバイル型遠隔情報保障システム』とは、聴覚障がいをお持ちの方が学校の講義などを受ける際に、2名の通訳者が連携しながら話者の言葉を要約してパソコン画面に字幕化する「パソコン要約筆記」を、携帯電話を使って遠隔で行うシステムです。従来の要約筆記では通訳者が学校の講義などに同席することが必要でしたが、本システムでは、携帯電話を通じて、話者の音声を遠隔地にいる通訳者に送信し、そこから字幕データを受信することで、聴覚障がいをお持ちの方が、通訳者が立会わなくても要約筆記を利用できるようになります。

携帯電話「iPhone 3G/3GS」に講師の音声を送るマイクロホン(Bluetooth)

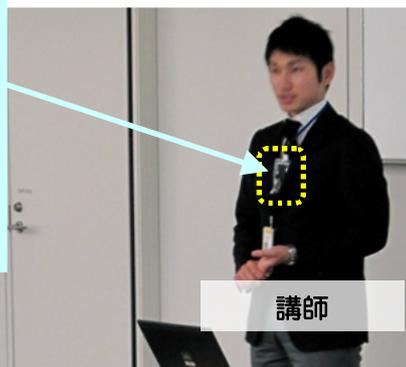
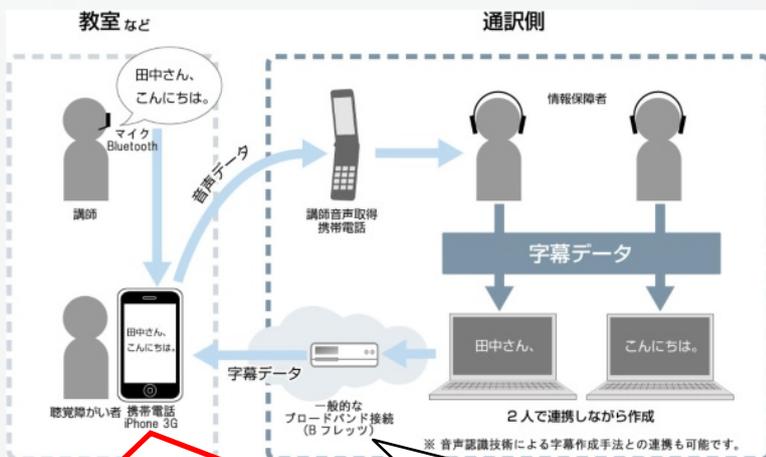
教室側の機材が少ない！
 ・iPhoneとマイクの2つだけ
 ・CDケース2枚分程度の大きさ

データ通信カードの利用も可能

現在は、画面が大きく、通話とインターネットアクセスが同時に可能なiPhone 3G/3GSを使用しております。この機種は、音声通話と字幕表示・更新に必要なウェブブラウジングを同時に行うことができる携帯電話の一つです。

現在、本システムの特性に関して、通訳者や聴覚に障がいのある方々に対するヒアリングやアンケートを、実証実験を通して行っています。

今後、それらの成果をマニュアル化し、発信・配布してゆく予定です。



講師

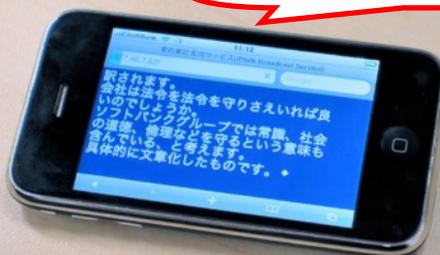


講師の音声を聞いて、それを即座に文字化する情報保障者



聴覚障がい者

「音声通話」と「字幕表示」を同時に行い、機材を減らしています！



講師の音声を情報保障者へ送りながら、文字を表示する携帯電話「iPhone 3G/3GS」